

AUTOBACS SUPER GT ROUND4 FUJI SPRINT RACE

NISSAN MECHANIC CHALLENGE 学生レポート

日産横浜自動車大学校 一級自動車工学科 2年 河野好晃
一級自動車工学科 1年 杉村美華



日産 東京 日産神奈川 兵庫 日産 埼玉 日産 大阪 日産プリンス福島 日産プリンス埼玉 岐阜 日産 愛知 日産 日産プリンス名古屋 京都 日産 愛媛 日産 鹿児島 日産 帯広 日産 日産青森 日産サティオ弘前 秋田 日産 日産プリンス秋田 日産サティオ秋田 日産プリンス宮城 福島 日産 栃木 日産 日産プリンス栃木 日産プリンス群馬 長野 日産 日産サティオ埼玉 日産自動車販売 千葉 日産 日産プリンス千葉 三重 日産 日産プリンス三重 静岡 日産 日産プリンス静岡 浜松 日産 三河 日産 滋賀 日産 日産プリンス兵庫 和歌山 日産 日産サティオ岡山 日産プリンス広島 日産プリンス山口 香川 日産 日産福岡 日産サティオ佐賀 長崎 日産 日産プリンス長崎 日産プリンス大分 日産プリンス熊本 熊本 日産 加川 日産 岩手 日産 日産プリンス岩手 日産サティオ新潟西 甲斐 日産 松本 日産 日産サティオ千葉 日産サティオ浦南 富山 日産 日産サティオ富山 石川 日産 奈良 日産 日産プリンス和歌山 日産サティオ福山 日産サティオ宮崎

『学生スタッフの活動まとめ』

8月1日(金)は、会場到着後すぐにスタッフオリエンテーションが行われ、役割分担や広報活動の流れについて説明を受けました。普段は観客として入ることの多い富士スピードウェイですが、学生スタッフとしてパドックやピットエリアに入ると、レース前独特の緊張感を強く感じました。

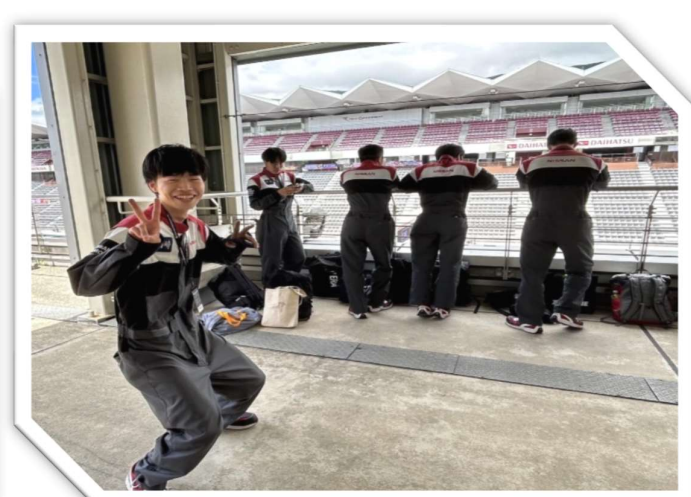
横浜ゴム株式会社(横浜タイヤ)の見学を行いました。見学では、タイヤの開発工程や性能評価に関する説明を受け、普段は意識していないタイヤの重要性について理解を深めることができました。特に、ゴムの配合やトレッドパターンの工夫が安全性や走行性能に直結するという話は印象的でした。また、モータースポーツにおけるタイヤ開発の裏側を知ること、技術が日常の安全にも活かされていることを実感しました。



8月2日(土)は、レース初日で、多くの関係者が訪れ、会場全体が熱気に包まれていました。

学生スタッフは、スポンサーである日産の関係者の方々に飲み物やお弁当を配布する活動を行いました。限られた時間の中で正確に配布することや、丁寧な対応を心がけることで、関係者の方々が快適に過ごせる環境づくりにつながりました。

活動を通して、モータースポーツの現場は競技だけでなく、多くの人々の支えによって成り立っていることを改めて実感しました。スポンサーへのサポートもその一部であり、裏方としての小さな働きかけが大きなチームワークにつながることを学ぶことができました。



8月3日(日)、GT300 単独スプリントレースで、学生スタッフは、チームピットでのサポートを中心に活動しました。

朝からピットは緊張感に包まれ、マシンの最終チェックや準備が慌ただしく進む中、学生スタッフはチームの動きを間近で観察し、必要に応じた作業補助を行いました。ピット作業のスピード感や、ドライバーのスタート前の集中力、メカニック間の連携の重要性を実感する貴重な機会となりました。

レースでは、平手晃平選手が10位スタートから安定した走行を見せ、前方車両との間合いやライン取りを巧みに調整。給油やタイヤ交換のない短期決戦では、タイヤマネジメントや冷静な判断力が結果に直結することを目の当たりにしました。学生スタッフとしては、ピットでの作業の流れやタイミングを確認しながら、チームの戦略や判断を学ぶことに集中しました。



『レースのまとめ』

2025年8月2日から3日にかけて、**SUPER GT 第4戦**スプリントレースが富士スピードウェイにて開催されました。8月2日(土)の混走**35周**スプリントでは**9位**スタート。マシントラブルにより一時ペースを落とすもののオリベira選手が持ち前の冷静なドライビングでポジションをじわじわと上げてきました。給油・タイヤ交換なしの短期決戦の中、巧みなライン取りとブレーキングで抜きにかかるシーンも随所に見られ、終盤にかけて安定したペースを維持。**11位**という結果ながら、激しい**GT300**勢の中団バトルをリードする走りは光りました。



8月3日(日)の**GT300**単独レース・**50分**タイム制では、前日とは異なり**GT500**との混走がなく、純粋に**GT300**勢だけの順位争いに集中できる環境となりました。スタートは**10位**で、前半は中団でのトラフィック処理が課題となりましたが、効率的な加速と最適なライン取りによりポジションを維持。給油やタイヤ交換のないフルスプリントの中でタイヤ摩耗に注意しつつ、前方車両との接近戦ではブレーキングポイントとライン選択の駆け引きで対応。レース終盤まで安定したラップタイムを刻み、最終的に**10位**でフィニッシュしました。

両日を通じ、**56号車**は中団バトルでの冷静な判断力と精密なライン取りを見せ、短距離スプリントにおけるタイヤマネジメントや加減速の最適化が勝敗に直結することを示しました。また、今後のレースに向けて中団バトルでのオーバーテイク戦略やマシン耐久性のデータを収集できたことはチームにとって大きな収穫となりました。

『感謝を込めて』

今回の日産メカニックチャレンジでは、学生 20 名が活動に参加し、様々な経験をさせていただきました。活動を支援してくださっているスポンサーの方々、諸先生方、KONDO レーシングの皆様への感謝の気持ちを忘れず、この日産メカニックチャレンジで得た経験を日々の学校生活や今後の人生に生かしていきます。

この記事を通して少しでも多くの方々に、日産自動車大学校の学生の活動に興味を持っていただけると、とても嬉しいです。

日産自動車大学校は毎月オープンキャンパスを開催していますので、ぜひ、お近くの日産自動車大学校のオープンキャンパスに気軽にお越しください！

学生、職員一同皆様のお越しをお待ちしております！

この度は、日産メカニックチャレンジに参加させていただき、本当にありがとうございました。

文章、写真；杉村美華
河野好晃

